



特別講演会

薬剤疫学講演会

— McGill 大学 Samy Suissa 教授による講演会 —

日時 2009 年 03 月 12 日(木) 午後 5 時 30 分から 7 時 30 分

会場 東京大学医学部教育研究棟 13F 第 5 セミナー室

丸ノ内線・大江戸線「本郷三丁目駅」下車徒歩 10 分。赤門または龍岡門より入る。裏面地図参照。

講師 Samy Suissa PhD

(McGill 大学疫学・生物統計学・医学教授)

講演タイトル:

慢性閉塞性呼吸気疾患に対する 吸入副腎皮質ステロイドのデータベース研究: “immortal time bias”

Database studies of inhaled corticosteroids in COPD: immortal time bias

主催 日本薬剤疫学会

逐次通訳あり

参加費 2000 円 (資料代含む。当日お支払いください)

参加申し込み

別紙の申込用紙にご記入の上、下記事務局まで FAX (03-5297-5890) にてお送りください。
定員(40 名)になり次第、申し込みを締め切ります。

申し込み・問合せ先: NPO 日本医薬品安全性研究ユニット (本講演会の事務局)

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-13-4F

電話 03-5297-5860 FAX 03-5297-5890

開催の趣旨と内容

1992 年の *New England Journal of Medicine* に発表された吸入 β 刺激薬 *Salbutamol* と *Fenoterol* と喘息による死亡または“near death”に関するカナダ *Saskatchewan* 州データベースを用いた有名な研究 (Spitzer WO, Suissa S, Ernst P, et al. The use of beta-agonists and the risk of death and near death from asthma. *N Engl J Med* 326:501-6, 1992) をご記憶の方は少なくないと思います。カナダ McGill 大学の **Samy Suissa 教授**はこの研究を中心的に進めた薬剤疫学者です。

Suissa 先生は、これまでに 200 編以上の論文を発表されており、1995 年には薬剤疫学の方法論として現在重要性を増しつつある“within-subject design”の発展によって画期的と評価されている“case-time-control design”に関する論文を発表されています。最近では、“immortal time bias”に関する論文も多く、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に対する吸入ステロイド剤の効果に関する誤った解析などに対して警鐘を鳴らしました。

また、薬剤疫学の標準的教科書とされている Strom の“Pharmacoepidemiology”では“*Novel approaches to pharmacoepidemiology study design and statistical analysis*”の章を担当し、上記“case-time-control design”や“immortal time bias”のほか、ネステッド・ケース・コントロール研究やケース・コホート研究などに関する解説をしています。

2009 年 3 月に来日されることになった Suissa 先生は、忙しいスケジュールの中、薬剤疫学に興味を持つ日本の方々のために慢性閉塞性肺疾患に対する吸入副腎皮質ステロイドのデータベース研究、特に“immortal time bias”に関して特別講演をして下さることになりました。薬剤疫学研究に興味をもつ方が一人でも多く本特別講演会に参加し、薬剤疫学の最前線に関する情報を得る機会として活用されることを希望します。

資料: Immortal Time Bias に関する Suissa 先生の論文
(当日の配布資料にも含まれています)

Effectiveness of Inhaled Corticosteroids in Chronic Obstructive Pulmonary Disease

Immortal Time Bias in Observational Studies

Samy Suissa

Division of Clinical Epidemiology, Royal Victoria Hospital, McGill University Health Centre; and the Departments of Epidemiology and Biostatistics and Medicine, McGill University, Montreal, Quebec, Canada

Am J Respir Crit Care Med Vol 168. pp 49–53, 2003

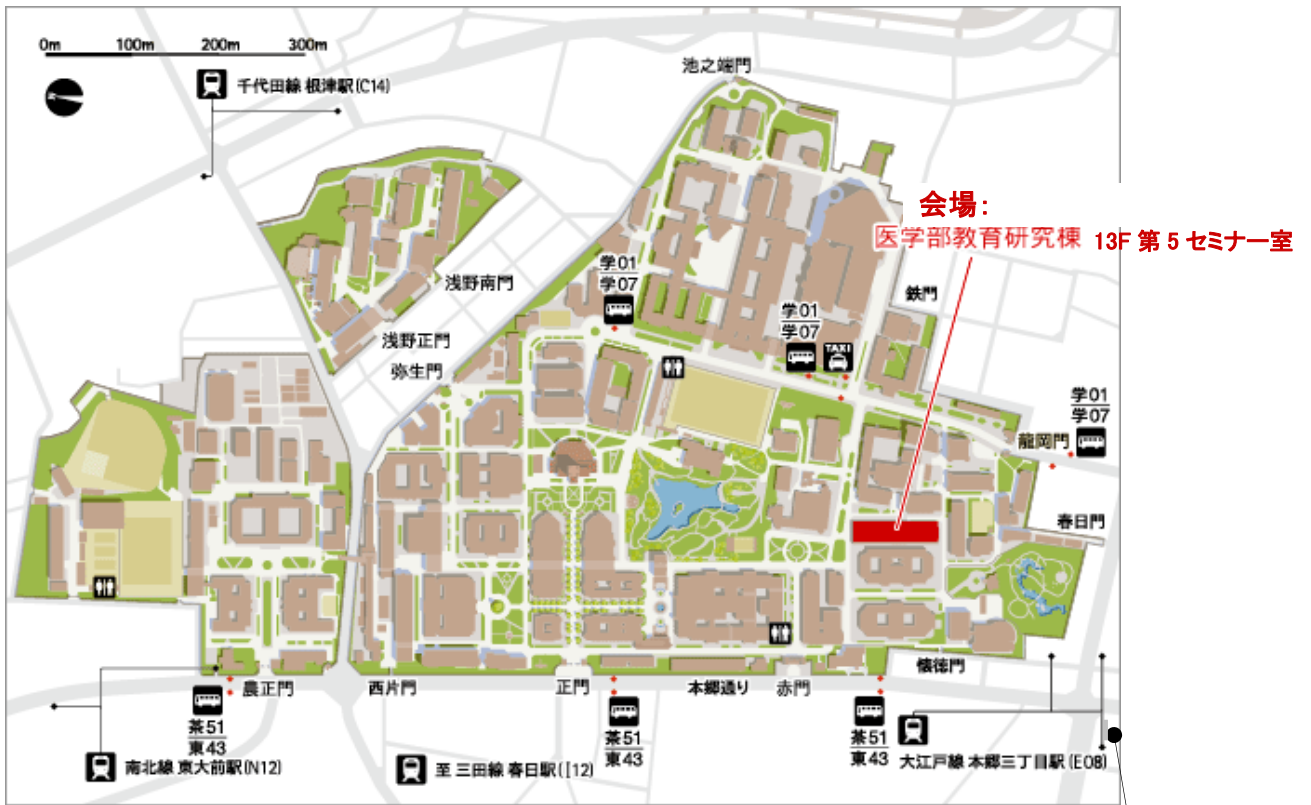
TABLE 3. CRUDE RATE RATIO OF DEATH OR READMISSION FOR CHRONIC OBSTRUCTIVE PULMONARY DISEASE FOR USE OF INHALED CORTICOSTEROIDS FROM THE SASKATCHEWAN CHRONIC OBSTRUCTIVE PULMONARY DISEASE COHORT, USING DIFFERENT TIME WINDOWS OF EXPOSURE, ESTIMATED BY THE TIME-FIXED AND TIME-DEPENDENT ANALYSES

Length of Exposure Period for Inhaled Corticosteroids	Percent Exposed	Time-Fixed Analysis*		Time-Dependent Analysis	
		Rate Ratio	95% Confidence Interval	Rate Ratio	95% Confidence Interval
15 d	13.9	0.98	0.74–1.31	1.06	0.80–1.42
30 d	24.0	0.89	0.71–1.13	1.03	0.81–1.31
90 d	39.1	0.68	0.55–0.84	0.94	0.76–1.17
180 d	45.8	0.58	0.47–0.71	0.94	0.76–1.17
Entire follow-up, 1 yr	49.0	0.51	0.41–0.62	0.94	0.76–1.17

* Analysis used in previously published study (13).

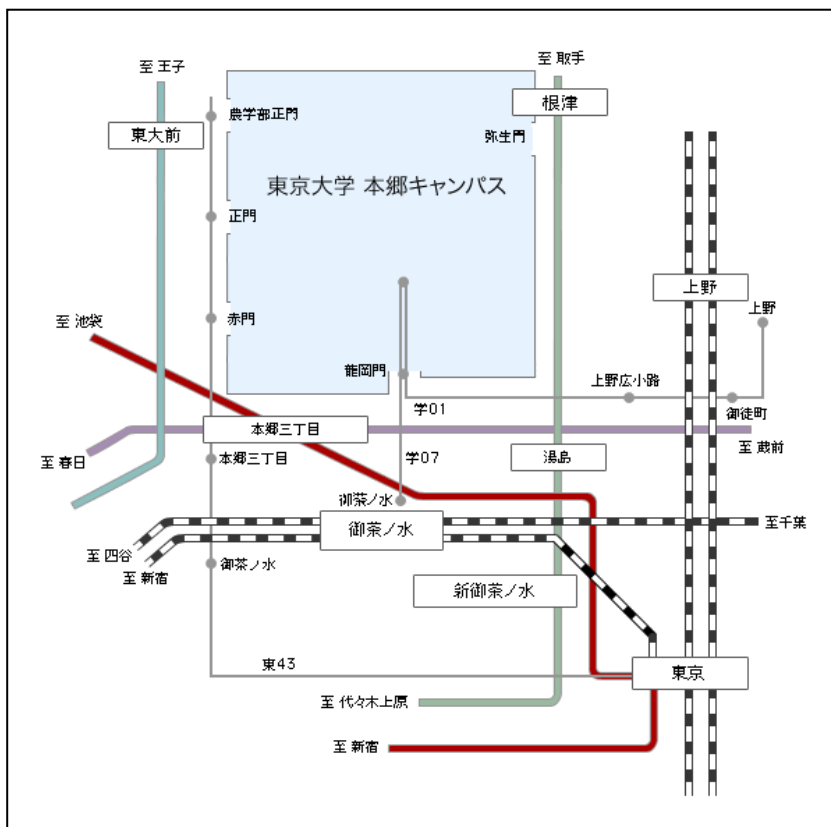
“Immortal Time Bias”に関する2003年の論文。誤った解析をすると“Exposure period”を90日以上に設定すると吸入コルチコステロイド剤がCOPDの死亡・再入院を減らすように見える(赤枠)が、正しい解析をするとこの関係は見られない(青枠)ことを示した。

東京大学本郷キャンパス構内



丸ノ内線 本郷三丁目駅

東京大学本郷キャンパスへのアクセス



- ・丸ノ内線・大江戸線
「本郷三丁目駅」下車徒歩 10 分。
- ・赤門または龍岡門より入る。